

専門部会報告

〔 第5期計画の取り組み状況等に対する意見について 〕

1	農業部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	林業部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3	水産部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
4	商工業部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
5	観光部会	・・・・・・・・・・・・・・・・	5

農業部会報告(産業成長戦略／農業分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

農業分野の令和7年度上半期の進捗状況及び強化の方向性については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

また、事務局からの説明に対し、部会員から以下のとおり意見・要望が出された。

【主な意見】

(1) 生産力の向上と持続可能な農業による産地の強化

①高温対策として、高温条件下でも品質と生産量を維持できるような栽培技術の確立や品種開発等の対策が重要。県外の事例なども参考に、対応をお願いしたい。また、作業者に対する直接的な支援が必要。

②高温対策に関する補助事業をJAの窓口でスムーズに案内を受けられるように、県からJAへPRをお願いしたい。

(2) 流通・販売の支援強化

コロナ禍以降食の様式が変容しており、冷凍食品の需要が伸びている。高知県産の農産物についても冷凍加工を検討してはどうか。

(3) 多様な担い手の確保・育成

県外からの新規就農者を確保するためには、仕事以外のプライベートの充実も重要。プライベートの時間をいかに充実させられるか、高知県の魅力も併せてPRすることが新規就農者を確保するためには必要。

林業部会報告(産業成長戦略／林業分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

林業分野の令和7年度上半期の進捗状況及び強化の方向性については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

【主な意見】

(1) 再造林の推進

- ① 本県は、事業地が奥地にあることが多いため、林地残材を持ち出すことが難しい。植栽後の作業を省力化させるためにも林地残材の利活用の推進が重要。
- ② シカだけでなくウサギの獣害もかなり出ている。網を張っても被害がでる状況で、最終的には単木保護となり高額な費用がかかる。低コストな獣害対策を検討する必要がある。

(2) 効率的な原木生産の仕組みづくりの構築

- ① 立木の単価が低調な中で、効率よく立木を伐採する方法や最適な作業の仕組みづくりを検討してほしい。
- ② 皆伐に伴う作業道の作設に対しては、現場の経済活動であることに配慮しながら、森林作業道の作設指針に則って開設するよう徹底してほしい。

(3) 多様な担い手の確保

- ① 若いころに林業に触れることが重要。高校などへの出前授業の機会を生かせるよう、説明だけではなく体験を伴うような形で確実に心に残るようなやり方をするなど取組を工夫してほしい。
- ② 人口減少に対応するためには、女性の活躍が必須。若い女性が就業できるよう支援してほしい。

(4) 若者の所得向上

- ① 一つの現場から得られる利益を大きくするには、生産性は大事な要素だが、木材の高付加価値化、バイオマス利用などの取組も必要。
- ② 林業では、現場でできる簡単な機械の修理に対応できる技術なども従業員に求められるところ。高能率な機械ほど、現場に与える影響は大きい。定量的に評価するのは難しいと思うが、従業員の給料等に反映できるといいのではないか。

水産業部会報告(産業成長戦略／水産業分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

水産業分野の令和7年度上半期の進捗状況及び強化の方向性については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

【主な意見】

- (1) 漁船漁業の不漁対策として、マルチ漁業化は進めていくべきである。今後は、沿岸漁業だけでなく、かつお・まぐろ漁業等のマルチ漁業化支援についても検討をお願いしたい。
- (2) 養殖業について、今後さらに水温が上昇していくことが考えられるため、新しい養殖対象魚種の検討をお願いしたい。
- (3) 女性の新規就業者を確保していく中で、研修の指導を行うのは男性漁業者になるため、漁業就業支援センター等において、トラブルなく研修が実施できるよう対応をお願いしたい。

商工業部会報告(産業成長戦略／商工業分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

商工業分野の令和7年度上半期の進捗状況及び強化の方向性については、事務局案に基づき進めることに異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

【主な意見】

(1) 生産性の向上

- ① 外部環境は変えられないので、自社でコントロールできるQCD（品質、費用、納期）に集中するしかない。そのために、製造現場のデジタル化、AI、ロボットの導入といった取り組みの加速化が必要。
- ② また、これまでの業務が、5年後10年後には機械に置き換わることを前提に、製造現場だけではなく事務部門も含めて、新しい仕事に対応できる能力を身につけていくためのリスクリングが必要。

(2) 新製品・新技術の開発

高知県は他県に比べて自社製品を持って販売している企業が少ない。労働生産性の全国との差を縮めるためには、新製品や新技術の開発が必要であり、そのための人材育成が必要。

(3) デジタル人材の育成

社内に数人はデジタルに詳しい人材がいる。デジタル化を進めるため、そのような人材の能力を引き出していく必要があるため、事例の紹介も含め、刺激を与えるような取り組みをしてほしい。

(4) 外国人材の受入・活躍

- ① 外国人労働者の数は今後ますます増えていくと考えられるが、ただお金を稼ぐだけではなく、居住する地域に良い印象を持ってもらいたい。このため、言語も含めて、地域とコミュニケーションを図る方法を学ぶ機会を作ってもらいたい。
- ② 外国人材に定着してもらうため、宗教上の配慮など、受け入れる企業も勉強し対策することが必要。このためのノウハウの共有など、支援をお願いしたい。

観光部会報告(産業成長戦略／観光分野)

1. 専門部会での評価と主な意見

観光分野の令和7年度上半期の進捗状況及び強化の方向性については、この方向性で進めることについて異議はなく、次の専門部会で戦略や具体的な施策について協議することとした。

【主な意見】

(1) インバウンドの誘客について

- ① 現在、四国各県において、台湾や韓国を中心に定期便等が就航している。今後の誘致（例えばインドなど）については、訪日客の動向なども注視しながら、四国4県で話し合いをして棲み分けができないか。
- ② インバウンドは「日本」に来ていると考えるので、ディープな体験だけでなく、わかりやすい日本の文化体験を求めていることを意識してもらいたい。
- ③ 外国人の歩き遍路が増えている。竹林寺などの寄りやすいお寺でアンケートをとるなどの方法により、外国人の歩き遍路に関するデータを収集し、分析できないか。
- ④ クルーズ船の観光客に対して実施しているアンケートのフィードバックができないか。

(2) 国民文化祭に向けたプロモーションについて

国民文化祭の開催期間中、高知県では26の全国大会が開催されるため、その出場者と家族にターゲットを絞った観光プロモーションをした方が良い。

(3) 県内旅行需要の創出について

- ① 今は団体旅行から個人旅行への流れがあり、個人旅行ではバスよりもレンタカーという人が増えているが、団体バスは路線バスと異なり、一時的な需要の場面で活躍できると思うので、団体バスの需要を回復させるような取組みができないか。
- ② アウトバウンドや県民の県内旅行に対する支援（社員旅行（＝社員の福利厚生）に対する支援など）ができないか。

(4) 関係人口や移住者の増加に向けた施策について

- ① 市町村単位のローカルな関係人口づくりが、最終的に移住や地産外商につながるのではないかな。
- ② 龍馬パスポートは、登録者の約8割が県外の人であり、ステージアップのためには何度も高知を訪れる必要がある。龍馬パスポートのステージが進んでいる方は、既に宿泊や体験をしてくれている人なので、そのような方を対象として、高知県への移住者の増加に向けた取組みができるのではないかな。